2025年9月期決算説明会　主な質疑応答

2025年11月28日（金）に開催した2025年9月期決算説明会におけるご質問および当社の回答は以下の通りです。※A.の（）内は回答者。

Q. 2025年度の業績予想を上方修正した背景と、ROEの現状および今後の見通しについて教えてほしい。
A.（中澤社長）資金利益の増加と与信関係費用の減少によって経常利益が110億円程度改善する見込みであることから、通期の連結当期純利益の予想を410億円から500億円に修正した。現状を踏まえた妥当な水準と考えている。ROEは中間期実績ではあるものの9．21％と中期経営計画の目標を上回っているが、現時点で今後の金融政策は不透明であり、中期経営計画の目標そのものは変更していない。保守的に見ている側面もあるが、こちらも妥当な水準と考えている。

Q. FG一体経営について、現状を教えてほしい。
A.（中澤社長）グループガバナンスについてはこれまで様々な面で改善を図ってきた。具体的には、有価証券ポートフォリオや人材、リスク管理など、これまで両子銀行で個別に管理していたものをFG一体で管理をするように変更している。今後は人事交流についても一層活発に進めていきたい。インナーブランディングの取り組みも強化しており、FG内のどの会社に所属していたとしても、ほくほくフィナンシャルグループの一員である、という連帯感が生まれてきている。発想の変化や対話力、現場力もFGとして向上していると認識している。 （兼間副社長）ようやく理想的な一体経営に近づいてきた。今後も経営管理の強化に対し、しっかり取り組んでいく。

Q. 2025年度通期の業績予想について、上期の決算を踏まえると保守的な印象を受ける。社長の考えを伺いたい。
A.（中澤社長）背景には、この上期の経済環境が今後も続くかどうかを懸案している点があり、インフレや資材高騰により設備投資関連の需要が縮小する可能性をマイナス材料として勘案している。加えて、段階的に到来する有価証券の償還に対し、再度購入時に金利が急上昇するような場面になれば購入のタイミングを再検討する必要があり、この点もマイナス材料として勘案している。

Q. 与信費用の戻入について確認したい。個別のランクアップ要因によるものなのか。背景を教えてほしい。
A.（中澤社長）個別のランクアップがあったことに加え、2024 年度上期に発生したような大口の個別引当がなかったことにより戻入となった。与信費用全体としては想定の範囲内と考えている。

Q. 資本政策に関する今後の構想について教えてほしい。
A.（中澤社長）中期経営計画で掲げた普通株式総還元性向 40%目途という還元方針に沿って着実に進めていきたい。

Q. システム投資の規模と、投資対象と考えている分野を教えてほしい。また、アプリのユーザー数が 100 万人を超えているが、どのような展望を持っているか。
A.（中澤社長）システム投資にかかる具体的な金額は回答を差し控えさせていただくが、主要な投資対象としては、勘定系システム MEJAR やデータベース、CRM、データ連携基盤の活用による後方事務の合理化に向けた投資、ATM 関連、職員の業務用 PC 等、多岐にわたる。アプリや法人ポータルに対しても恒常的な投資が必要だが、中長期的には機動性を確保すべくグループで内製化できればと考えている。アプリユーザー数の増加によって振込業務や照会業務、諸届業務等が店頭からアプリに置き換わるため、後方事務の合理化と省力化に繋がる。ネット銀行やネット証券等との差別化を図っていくことが肝要と考えており、対面と非対面それぞれの強みを活かしたモデルを模索したい。アプリはそのための一つのツールであり、今後も利便性向上等に向けた開発を継続していく。

Q. 両子銀行の貸出を見ると、北海道銀行の貸出の増加幅が鈍いように思う。何か要因があるのか。また、北海道地区の今後の資金需要の見込みについて教えてほしい。
A.（兼間副社長）北海道の資金需要は冬場に旺盛となるため、9 月末にかけてではなく 3 月末にかけて残高が積み上がる傾向にある。資金需要については、ラピダス社の進出に伴う周辺の開発にかかる資金需要に対し、この 2 年間で 2,000 億円程度の支援と相談を受けてきた。ラピダス社本体の資金需要は 2027 年度以降に発生すると見込んでいる。加えて、データセンターの建設に伴う周辺の開発も予想される。これらの資金需要に FG としてしっかり応えていきたい。

Q. 年初からのほくほく FG の株価の上昇についてどのように捉えているか。
A.（中澤社長）これまでの株価が低調だった。金融環境が変わり、より利益を確保できるようになったことで株価が上昇したという構造だが、当社の規模やポテンシャルを踏まえるとまだまだ伸び代はあると考えている。 （兼間副社長）優先株式がある間は投資家の関心は高まらないという厳しい声もあり、利益を確保して自己資本を積み上げていく過程で優先株式を償還したいと常に考えてきた。4 月 1 日に全額償還できたことは普通株主の皆様にも評価いただいていると考えている。今後もステークホルダーの期待にしっかり応えていきたい。 （舟本監査等委員）株価の上昇は喜ばしい。一時期、自己資本を確保する観点で減配した時期があり株価の下落を経験したが、その苦しい時期を乗り越えて利益を積み上げていく中で金利ある世界を迎え、安定した利益を確保できるようになり株主に還元するという望ましい循環が戻ってきた。政策金利の上昇もエンジンにしながら、更なる貸出の伸長を期待したい。 （奥村監査等委員）ポートフォリオやリスクテイクの状況を見ると、中期経営計画を達成するための土台は十分にあると認識している。また、株主の目線で施策検討が行われていると感じており、今後もそれらの施策を通じて企業価値の向上に向けた取組みが更に進んでいくことを期待している。併せて、財務やポートフォリオに関して FG として行き届いた一体管理がなされているという点も、付言しておきたい。

以　上